

## 国立大学法人愛媛大学学長選考・監察規程第11条に基づく 仁科 弘重 学長の業績評価結果

学長選考・監察会議決定の「学長に求められる資質・能力」が発揮されていること並びに選考の際に提出された所見及び中期目標・中期計画の達成に向けて、学長の職務が適切に遂行されていることを確認した。

### 【特色・強み】

#### <大学経営・運営全般>

- 本学が全世代対応型の「地域における知の拠点」として、地域社会の持続的な発展（サステナビリティ）と、急激な社会情勢の変化に対応できる強靱さ（レジリエンス）の向上に貢献するために、教育・研究・社会貢献の各分野で戦略的に改革に取り組んでおり、その取組は、地方大学の模範となる先進性を備えている。
- 機構の再編等を推進し、教育・研究・地域協働・国際連携・DX・産学連携などの機能を、全学横断で強化する体制に刷新した。
- 教員人事の全学一元管理制度を導入し、全学的視点に立った人件費管理と戦略的な人的資源配置を実現した。
- 新「愛媛大学ビジョン」を策定し、社会変化に対応した大学の役割・方向性を明確化し、地域社会との連携を強みとし、持続可能な社会の構築に貢献する地方大学のあるべき姿を示した。教育・研究・社会連携の三位一体を重視した本ビジョンは、地域の中核大学としての責務を明確にしたものであり、高く評価できる。
- 新たにUA組織新設の検討を開始するなど、愛媛大学の弱点と思われる点の存在を率直に認め、それを補う方策の構築に、スピード感をもって取り組んでいる。
- 財政状況の厳しさを説明するための各学部における学内説明会の開催、全課（室）長との意見交換の場を設けるなど、多様な関係者の意見を丁寧に汲み取り、双方向の情報共有によって合意形成を図りながら、実効性の高い施策を実施している。

#### <学長のリーダーシップ発揮>

- 厳しい経営状況のなか、限られた資源を戦略的に配分することで、大学全体の競争力を向上させるなど、強いリーダーシップとマネジメント力を発揮している。
- 文部科学省等への本学の強みの情報発信に積極的に取り組んでおり、当該活動は大型の競争的資金の獲得にも寄与している。
- 今後の大学教育の在り方に関する国の方向性等に先んじて新たな博士後期課程や学環の検討を開始するなど、時宜にかなった具体的な取組を進めている。
- 国立大学協会等においても、議論や検討の中心的な役割を果たしており、地方大学の実情や課題を踏まえた的確な対応を行っている。

#### <社会が求める人材の育成>

- 次世代人材育成拠点を整備し、小学生から高校生の育成を全学的に取り組むことができる体制を明確化した。

- 高度情報専門人材育成のための工学部・理工学研究科の定員増、地域の行政・産業界との協働に基づくリカレント・リスキリング教育など、社会及び地域からの要請に応える人材育成の仕組みを整備した。地域産業の高度化と持続的発展に寄与する大学の役割を着実に拡大している。
- 愛媛県が世界に誇る地場産業である「海事産業」に着目し、工学部に「海事産業特別コース」を新設した。海事産業関連の地元企業とも連携した産学連携の取り組みとしても、高く評価できる。

#### <地域協働の推進>

- 地域ニーズや地域課題に応じ設置している地域密着型研究センターの機能強化を通じて、地域協働を推進していることに加え、これからの今治海事産業クラスターを牽引する「今治サテライト」を設置し、地域産業と密接に連携した人材育成・研究開発の拠点づくりを積極的に推進しており、地域に根差した大学としての存在感を大きく高めている。
- 今治市とのTown & Gown構想の推進と海事産業との連携は、特色ある地域創生への取り組みとして高く評価できる。
- 本学における社会連携・地域連携に長く携わっており、第一人者として、県内の幅広い方面のステークホルダーとの協働体制を構築している。地域社会に寄り添い、産業界と共に教育研究の価値を創出しており、大学の多面的な機能発揮と中長期的な発展に大きく寄与している。

本学の強みを活かした戦略の策定・実施や管理運営の改革を推進していく中で、地域から信頼され、愛される大学を目指して引き続き尽力されることを期待する。

令和8年1月30日

国立大学法人愛媛大学学長選考・監察会議